

2/2X(B) まいど! 命々号であ。やっこの時向となりま。申し訳ありま。自然災害の怖さをまじまじと見せ付けられま。海も山も町の半も何にかあふか分りません。目に見えない大自然の波をどうすればいいのか。

今週の倫理 892号

心聲かに受とのまじょう。

2014.9.27~10.3

幸と運がアホ鳥

# 朝一番の波を捉える



え・小島サエキチ

九月のテーマ

波に乗る

**秋**

は祭りの季節です。日本人は昔から、秋の収穫シーズに「五穀豊穣」「大漁満足」などを祈願し、田畑や山、海からの幸に感謝を込めた祭事を執り行なってきました。

その地域の形式に則り、踊りや歌に願いを託します。同じ共同体で暮らす人々が、一年間の感謝を捧げながら、「ワツシヨイ、ワツシヨイ」「やっさ、やっさ」などと掛け声を合わせて、神輿を担ぎ、町内を練り歩きます。この神輿の重さは、一度でも担いだ経験のある人ならよくご存知でしょう。

神輿を担ぐのは容易ではありません。重いものでは一トンを超える神輿もあるようです。しかし、不思議なもので、声を揃え、息を合わせて担ぐことで、あれほど重く肩や掌にのしかかっていた負担が、嘘のように軽くなるものです。祭りの見せ場ともなれば、異様な盛り上がりの中で、神輿と担ぎ手が一体となったような感覚を覚え、見ているものも共感の輪に巻き込んでしまいます。

一体になるのは、神輿と担ぎ手、観客だけではありません。神輿や山車には、祝詞奏上と共に「御魂入れ」という式が執り行なわれます。この時、ご祭神と共にご先祖様が招かれます。つまり、今を生きるわれわれと、あの世の神様、ご先祖様が、祭りを通して一体となるのです。

まさに祭りは、目に見えない大自然のリズムと一致し、命の波に乗る如き営みといえましょう。

「波に乗る」という慣用句には、時の流れに乗る、時勢にうまく合って進展する、勢いに乗る、調子に乗るなどの意味があります。皆様は、経営者として、どのような波に乗っているでしょうか。

通常、経営者として必ず意識をしなければならぬ時間の区切りとして「今期」「二年間」といった捉え方があります。

一年間の目標を達成するには、当然、半年ごとの決算が関わってきます。それをクリアするには一カ月ごとの目標があり、一カ月の前提には一週間という区切りがあ

ります。そして、この一週間を作り上げるのは、今日一日をどのよう to 過ごしたかということによります。つまり、一年間という長いスパンで波に乗るのは、突き詰めていけば、今日一日の小さな波に乗ることなのです。

倫理法人会では、一週間に一度の「経営者モーニングセミナー」の会場に、「朝起きは繁栄の第一歩」という標語を掲げています。

「朝起き」とは、目が覚めたらサツと起きることです。朝起きるということは、「気づき」であり、「インスピレーション」「直感」とも結びつきます。「気づき」とは大自然からのメッセージであり、これも波の一種として捉えることができるとでしょう。

今日という一日は朝から始まります。その朝のスタートをどのよう to 切るのか。いつまでも惰眠を貪ったり、二度寝しては、せっつかくのチャンスを取り逃がしてしまいます。気づきの波に乗って、一日の良い波を作り出し、人生の波に乘ろうではありませんか。